



緑一面の八郎潟干拓地（秋田県大潟村）にある大潟キャンパス。約190名の広大な大地で、アグリビジネス学科の学生たちが、農畜産物の生産から流通、経営までを学んでいる。

9月上旬、まだ夏休み中の同キャンパスを訪れると、実習用水田には稲穂がたわわに実り、その近くでは肉用牛が放牧されていた。果樹園のリンゴはちょうど収穫時期だ。

地域住民と交流

キャンパス内で学生が地

域住民と触れ合う「村づくり」に取り組んでいると聞いて、取材した。水田に囲まれた一角で、金づちやノコギリを手に、木造の小屋を作る10人の学生たち。重労働ながら、その表情からは笑顔が絶えない。

この活動は、自然や人との交流を通して人間力を育て体験プログラム「薫風・満天フィールド交流塾」の一つ。同交流塾は、学生の提案をもとに、ハーブ作りやカヌー体験、県内の農・漁村訪問など年間を通じて30ほどのメニューが用意さ

れ、延べ1000人余りが参加している。「楽しみながらさまざまな体験ができて、秋田の自然の魅力を改めて実感しています」と目を輝かせるのは、「村づくり」のメンバーでアグリビジネス学科2年の佐藤旭浩さん(20)だ。佐藤さんは、祖父が営んでいた農業に興味を抱き、県内の農業高校を経て、入学した。野菜や果実など園芸作物の品種改良や経営に関心があるという。「若い力で新たな農業ビジネスを展開したい」と夢を語る。